

「札幌版次世代住宅基準」に学ぶ

面積よりも性能。 美しくシンプルに暮らす

第9回日本エコハウス大賞の自治体部門「札幌版次世代住宅賞」を受賞したのは、菊地宏子さん（GLOBE ARCHITECTS代表）が設計した「軽井沢 愛犬と暮らす家パッシブハウス」（以下、愛犬と暮らす家）。そこで現地に足を運び、高断熱高気密だからこそ叶えられる住まいのあり方を取材した。



第9回日本エコハウス大賞
札幌版次世代住宅賞



1/ガレージの高さを抑えるなど、街並みに影響を及ぼす道路側は特に配慮して設計している
2/南側に大開口をもつLDK



夏と冬の快適さを両立させ、 自然の中に佇む美しさを追求

新しく家を建てた一番の理由は、愛犬が庭で遊べる環境をつくることだったが、同時に軽井沢で冬を暖かく過ごせることも譲れない条件だったという。加えて昨今は軽井沢でも真夏日が増え、夏の冷房も欠かせなくなっている。「1年を通して軽井沢で快適に暮らすために、高断熱高気密住宅のなかでも高いレベルにして

「愛犬と暮らす家」は、札幌市が掲げる札幌版次世代住宅基準のプラチナ等級に相当する性能を備えながら、外とのつながりを大切にしたりと、建築としての美しさが高く評価された。「このよな住まいが札幌にも増えてほしい」との審査員の期待も込めて、長野県に建つ住宅でありながら同賞の受賞に至った。

札幌と同じ2地域の軽井沢 必要な断熱性能とは

「このほか軽井沢には、日本一厳しいともいわれる「軽井沢町の自然保護対策要綱」がある。建蔽率・容積率は原則20%以下、建物高さや屋根形状、樹木の伐採などが制限されている。それらを遵守しながら、「周辺環境に調和し、地域の景観に貢献できる美しい建築となるように努めた」と菊地さん。設計に際し、次の基本方針を立てたという。

景観に配慮した5つの設計方針

- ① 建築の存在を目立たせない
 - ② 新しい建築と感じさせない（景色の変化を感じさせない）
 - ③ 裏側をつくらない設計
 - ④ 既存樹木はなるべく移設して再活用
 - ⑤ 近隣樹種と調和する新規樹木の選定
- この家は、建築確認上は2階建てだが、階高を極限まで低くすることで建築ボリュームを抑え、平屋のような佇まいにしている。また、太陽光パネルは西側の屋根に設置し、道路側からは視界に入らないようにするなどの工夫も加えた。



南側外観。外壁には長野県産の杉材を使用。広々とした芝庭は愛犬のためのドッグラン